

## 第四十三回入学式 式辞

陽春の輝きが増すこの佳き日に、東京都立小川高等学校第四十三回入学式を挙行するにあたり、来賓及び保護者の皆様にご参列いただき、厚く御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可しました新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。高校入試を突破して本校へ入学した皆さんを心から歓迎し祝福します。保護者の皆様にもお祝い申し上げますとともに、学校運営に御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

新入生の皆さんに高校生活を迎えるにあたって考えてもらいたいことをお話させていただきます。

皆さんは高校入試のために一生懸命勉強したことと思います。しかし、入学はゴールではありません。高校における勉強は、中学校のときのそれとは比べものにならないほどの深みと分量を持っています。しかし、それだけに、わかった、と理解できた時の満足感や喜びも大きいものになります。と思います。

この3年間で皆さんに学んでほしいのは、学習活動を通しての教科の内容はもちろんですが、それだけではありません。学校の存在意義は人と人とのふれあい、コミュニケーションにもあります。幸い小川高校には、穏やかな雰囲気の中のびのびと人間関係について学ぶことができる場がたくさんあります。ぜひさまざまな活動に積極的に参加して、人と人のふれあいの中から自他の尊重を学んでください。

ここで、漢字の「旬」という字を思い浮かべてください。竹冠を付けるとまさに今が旬の筍という字になります。旬というと食べ物が一番おいしい時期という意味ですが、そればかりでなく生き物の成長にも旬があるのだと思います。つまり、生き物のさまざまな成長にとって、それぞれに最適な時機があるのではないのでしょうか。ものの本によると、人間の記憶力は十八歳をピークとして衰退していくそうです。論理的な思考力も少し発達のピークがずれますが、高校生あたりからが最も充実する時機となっていくそうです。つま

り、皆さんのこれからの三年間が一生のうちで、記憶力も論理的な思考力ともに最も充実している時機となるわけです。皆さんの長い人生では、さまざまなことに取り組み、物事の判断をしなければならぬ場面が数多く出てきます。これらの力をつける最適な「旬」の時機が高校生の時代といえます。

素敵な高校生活を送るための秘訣は「夢」をもって高校生活を送ることです。しかし、どんなにがんばっても力が発揮できずうまくいかない時も多々あることでしょう。特に、目標を高く掲げれば掲げるほどそれを乗り越えるには困難が伴い、乗り越えられないこともあるでしょう。そんな時は、逃げ出すのではなく前向きに現実を受け止めるために、次の言葉を思い出してください。これは、ある芸人さんが意気消沈していた時に、祖母（おばあちゃん）から言われた言葉です。「死ぬまで夢を持ちなさい。がんばってみた結果、たとえその夢が叶わなくてもいいじゃないか、しょせん夢なのだから」。

皆さんの一人一人の顔が違うように、それぞれがすばらしい可能性を秘めた能力を持っています。それは種類がことなるかもしれませんが、高いとか低いとかいった単純なものさしでは測りきれません。俗な価値観を超越した大きな夢をもち、その夢に向けて具体的な目標を設定し、結果はどうあれ、それに向かって突き進んでいてもらいたいと思います。自分が人として成すべきことへの到達を目指す旅が始まります。特に高校生の皆さんは、背伸びして何かをつかもうとする中で、人は成長することができると信じます。

最後に、新入生の皆さんが小川高校で大きな志を抱き、先生や仲間の中で自発的に行動し活躍し、人間的に大きく羽ばたくことを心から願い、そして先生たちは全力で応援することを誓い、式辞といたします。

令和4年4月7日

東京都立小川高等学校長 勝嶋 秀行